

鍼灸師 榎本 守

朝起きて顔を洗おうとすると、何故か石鹸が目にしみたり、うがいをすると口から水が漏れたりするので、おかしいと思い自分の顔を鏡でよく見てみると…なんと左右不対象で顔が歪んでいる。これは、顔面神経麻痺の可能性が極めて高いです。顔面神経麻痺とは顔の表情をつくる筋肉へ分布する神経が、何らかの原因で障害され起こる麻痺の事で中枢性のものと、末梢性のものとがあります。中枢性の麻痺とは、脳幹と呼ばれる生命維持のための神経がすべて集まっている部分より上位で、脳血管障害などが原因により神経が障害される事で起き、末梢性の麻痺とは、脳幹より下位で神経が障害される事で発生致します。すなわち、顔と脳をつなぐ神経がある点を境にして脳側で障害されるか、顔側で障害されるかで中枢と末梢に分けています。今回は、末梢性顔面神経麻痺についてお話させていただきます。この麻痺の症状は、文頭でもお話したように、顔の筋肉が動かなくなり表情が一変するのですぐに識別する事が出来ます。また、神経の障害部位が脳幹に近いほど唾液分泌障害、味覚障害や聴覚障害の症状も加わります。これは、顔の筋肉のみの症状だと脳幹から遠いところの障害なので軽症、症状がひとつ増えるごとに脳幹に近いところの障害になっていきますので重症になってゆくという事です。軽症か、重症か、では後でお話する後遺症の程度に差異が出ますので大切なところです。つぎに原因ですが幾つかに分けることが出来ます。はじめにベル麻痺といい発生頻度が最も高いにもかかわらず、はっきりとした原因は解明されていませんが、ウイルス関与や寒冷刺激、精神的や肉体的ストレスなどで顔面神経を栄養する血管が貧血や低酸素の状態になり神経浮腫が起こり麻痺が生じると言われています。次に、事故など外傷で顔面神経が傷つけられ起きた麻痺を外傷性麻痺と言い、ヘルペスや水疱瘡をおこす水痘帯状疱疹ウイルスによる耳痛や外耳に水疱を伴う麻痺をラムゼイハント症候群と言います。いずれの原因にせよ発症後は、医師により薬物療法が選択され神経浮腫の改善を目的としてステロイド剤、ウイルスの関与が疑われる場合は抗ウイルス剤が処方され、神経の再生を促すお薬や血液循環を改善するお薬も処方されます。また、混合ガス療法や星状神経ブロックと呼ばれる血液循環の改善を目的とした治療も同時に行われる場合がありますが、麻痺に対する特効薬は今だ存在していません。それではどのように治療をすればいいのでしょうか。それは、上記投薬と合わせて、顔面の筋肉の過緊張で起こるひきつれ現象、目を閉じると口もいっしょに動くまたは、口を動かすと目が閉じてしまうという病的共同運動などの後遺症を最小限におさえるためのリハビリテーションが必要となります。通常、リハビリと聞くととどンドン頑張らなければならないと思いがちですが、顔面の筋肉に関してはやりすぎは禁物です。出来れば専門家の指導を受けて行なうのが安全です。当院では顔面麻痺に対しては、時期・症状を考慮し鍼灸治療・顔面筋のマッサージ・運動法の指導を行います。また、特に鍼灸治療において、ひきつれ・病的共同運動などの後遺症を助長する恐れがある鍼低周波通電療法は行なっておりません。このようにお薬、リハビリを続けることにより正常な顔面筋の運動を取り戻す事ができますが、文中にお話したように神経の障害部位が脳幹に近いほど後遺症が残りやすくなるのも事実ですので、文頭のような症状が現れたらすぐに耳鼻咽喉科に行きご自分の麻痺のタイプを調べてもらい的確に服薬し、正しいリハビリを行なわなくてはなりません。また、すでに何年も経ってしまった顔面神経麻痺の後遺症でもボツリヌス毒素を利用した治療法や顔面神経管開放術などの手術療法もあります。もちろん鍼灸治療においても不適用ではありませんので完全にあきらめる必要はないと思います。最後に一番大切な事は、もし後遺症が残ってしまったとしても、決して内にこもらず、友人とおしゃべりを楽しんだり、趣味に興じるなど前向きな姿勢で生活しこの病気を必要以上に気にしない事です。

以上

ホームページ <http://horaido.net>